

東亜大学経営学部 生田 誠三

文献の重み たいま逐次選択過程（本誌77年3月号に投稿）のより有効な一般化をめざして孤軍奮闘中です。この過程は修士論文のテーマであった受注選択問題に端を発し、その後、他のいくつかの具体的な問題をも少しずつ包摂するかたちで構築してきたものです。その中には、数年前、閉門まぎわの宮沢湖（東京）のマス釣場で思いついた問題「時間制限・釣匹数制限ありで釣果総重量最大化」という釣堀問題も含めることができます。（針がかりしたマスを水中で故意にバラすことは可能です）。時には下関のはなれ小島の波止場で釣糸をたれながら、連続時間・無限計画期間（割引なし）・ゲーム論的（たとえば2社による競争的受注選択問題）モデルへの拡張について想を練ることもあります。最近、この過程の解析の際にほとんど決定的ともいえる役割を演ずるいわゆる損失関数Tの性質についての研究にも興味をもっています。それにしても、地方にいて文献一つのもつ重みかくも大なるかを痛感する今日このごろです。

神戸商科大学
管理科学科 青沼 龍雄

これからの目玉は？ 管理科学という耳慣れない学科

が、わが国ではじめて設置されたといっていたのも15年前の昔話、最近では仲間もかなり増えてきました。そこで、経済・経営系学部におけるOR・コンピュータ教育の方法やあり方、カリキュラム全般、卒業生の進路開拓などについて同類学科に所属する会員相互間で情報・意見交換のできるネットワークができればよいと思っています。ORは工学系学部だけでなく、マネジメントに関係ある学部においてこそもっと積極的な活動があってよいと思いますし、そのために学会のお力添えも期待します。また、ORSAのように、各大学ごとに学生会員の支部組織のようなものが組織化されると情報交換が活発化し、学会の啓蒙にも役立つように思いますが、いかがなものでしょうか。

最近の研究上の興味は、社会・行政システムなどのような、大規模で、多様な価値観の内在する多階層システムにおける計画作成の問題にあります。とりわけ、大型計画の階層的集約化・分割化の方法、多評価規準・利害の対立のある計画の作成プロセスや多階層計画システムの設計、などの問題です。“風見鶏”が去って港神戸のつぎのセールスは“酒蔵”だそうです。ORのこれからの目玉は何になるのでしょうか、あわせてご指導・ご教示ください。